

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501657		
法人名	有限会社ふるかね屋		
事業所名	グループホームおたっしや長屋		
所在地	津市野田165		
自己評価作成日	平成25年7月19日	評価結果市町提出日	平成25年10月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JivogyoCd=2470501657-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 25 年 8 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

おたっしや長屋の基本理念である「たった9人のニーズすべてに応えられなくて何がグループホームか」「お世話してあげているのではない、お世話させていただく仕事なのだ」に忠実に職員は日々入居者と共に過ごしている。入居者も笑顔が多くおしゃべり好きである。全体的に体力は落ちてきているが、月に一度の外出は全員参加しており、皆さんのホーム内では見られない表情に職員は嬉々としている。中庭には菜園コーナーを作り、車椅子でも野菜の世話が出来るようになり夕方の水やりが日課ともなっている。残りの人生、楽しく笑顔で過ごして欲しい…それが職員の願いである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所9年目の事業所で利用者も年々重度化し、介護度が高くなっているのが現状である。開所当時からの入居者もおられ、今年は2年ぶりに入居者の変動があった。利用者は穏やかで落ち着いて生活されており、職員と一緒に会話しながら笑顔で過ごしている様子が伺える。職員の半数が5年以上勤務されており20代～60代と幅広く、それぞれの考えを尊重しながらチームワーク良く取り組んでいる。代表者や管理者は、可能であれば最期まで事業所でお世話したいとの思いがある。事業所にリフトつき中型バスがあり、車椅子利用者も含め全員で月に一度の遠出を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲げ、職員の共通理解としている。	理念を全職員が理解、共通認識を持って日々のケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板にて地域の情報を得ている。大道作りや盆踊り等、地域活動に参加すると共に餅つき大会や椅子体操等ホーム内の行事には、足を運んでもらい参加してもらっている。	管理者は「小学生の見守り隊」にも参加し、地域交流を深めたいとの思いがある。地域や事業所のイベント時は互いのできる範囲で交流しており関係は良く、毎週水曜日には地域の方を招いて「椅子体操」等のリハビリを行っている。野菜の差し入れもよくある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者にホームから近い場所に住んで見えた方も多く、面会も多い。ホームで行ういす体操に誘い、参加してもらうこともある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年末には駐在さん、他の月には入居者の家族等。いつものメンバーにプラスして出席してもらったりし、情報交換等している。	偶数月に開催し、メンバーは市介護福祉課・地域包括・自治会長・家族・事業所職員で構成され、事業所の近況報告・活動報告が行われている。また議題として避難訓練・防犯・終末期対応等の意見交換がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市介護保険課の職員に参加してもらっており、情報交換をしたり相談にのってもらっている。	代表者が事業運営や現場の実情を説明し、相談など意見交換を行い連携している。管理者は介護保険更新や、おむつ支給申請時に情報交換を行い協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所から八年間、玄関及び掃き出しの施錠はしたことがない。普段の介助の中で身体拘束になりそうなことは、全体会議で話し合い、身体拘束とならないよう注意している。	玄関は施錠していないため入居間もない利用者が外に出ることがあるが、職員が後について歩き、時間をかけて根気よく接している。。ベットの転落の恐れがある場合は、ベットを低くしマットを敷いて対応するなど身体拘束をしないケアに努めている。	身体拘束について実務での指導はできているが、基本的な知識を習得するための研修は確認できなかった。正しい理解や職員のレベル統一の観点からも全体会議での研修をお願いしたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議の度、虐待や身体拘束について話し合いをすると共に入居者の様子も普段から確認し、生活記録や申し送りノートに記入し全員で確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者は講習や研修で学んでいるが、現時点では必要な状態でないため伝達講習は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書により十分説明をし、理解納得した上で入居していただいている。今の所トラブルはない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時や入居者との会話の中で些細なことまでいろいろ話し合えるように心がけている。要望等あれば代表者に報告。又、全体会議にて皆で話し合えるようにしている。	家族の来所時、管理者・職員に意見や要望を気楽に話せるように配慮している。利用者からは「畑がしたい。外出したい。」等の希望があり、意向に沿えるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議で話し合う機会を設けている。代表者は普段から勤務に入っており、聞ける環境は整っている。	月1回の全体会議では給与関係、また福祉用具購入や入浴時の介助方法等、業務についての提案があり検討し改善している。温厚で気さくな代表者は勤務ローテーションに入り、常に現場の声に耳を傾けており、その声が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準を高めるべく努力をしているが年1%の昇給にとどまっている。故、勤務時間を短縮し、少しでも労働条件を和らげるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の希望も含め研修会等に参加を促している。「働きながらトレーニング」などもっての外。働いているときはトレーニングではない。プロの自覚を持ち全力で取り組むべし。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	みえ福祉連携プロジェクトに参加して5年目を迎えた。プロジェクトのイベントを通じ交流、勉強会、相互のスキルアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意思表示が出来る方はともかく、出来ない方の困っていることや不安なことを察知できるよう『気付き』を大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントがすべてとは思いつまず、面会時等回を重ねて聞き取れるような関係性を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体の状態に応じて訪問マッサージや訪問歯科を利用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活介護という視点は忘れないようにしている。又、実行してくれていると思っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等、顔を合わせたときはゆっくり時間をとり話せる環境を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医や、なじみの美容院など家族の協力も得ながら同行している。	家族と一緒に買い物・美容院・墓参りに出かける利用者もいる。近隣の知人が来訪されたり、また歯科医による定期的な歯の清掃、行きつけのスーパーなど、馴染みの人や場所との繋がりが途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲よし同士、気が合わない等は把握できており、職員が間に入ったりすることもよくある。入居者に女性が多いため、世話をやく姿が見かけられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とされる限り、関係を切ることなく支援を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の意思を尊重している。困難な方への対応は、家族の思いを考慮している。又、ふれあう時間の中から気持ちを汲み取り、思いを知り希望に添えるよう努めている。	日々の会話を大切にしながら意向の把握に努めている。困難な方には身振り・表情・行動等を観察しながら思いを汲み取り、職員間で情報を確認、共有しながら支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの聞き取り、面会に来られた親戚や知人等からも情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の一日の過ごし方は把握している。心身状態は日々の観察等から小さな変化も見逃さないよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは全体会議で出た課題等もふまえて原案を作成。全職員に閲覧し意見を募り再検討、作成し家族に説明、承諾を得ている。又、家族の意見や要望も聞きケアプランに反映している。	計画担当者は必要時や状況に応じ、関係者と担当者会議を開催し介護計画を作成しているが、サービス内容についてのモニタリングと評価が同じ記録のため見直しに繋がりにくい状況がみられた。	サービス内容に基づくモニタリングを項目毎に確認できる記録方法の工夫が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録や申し送りノートに、職員の気づきや工夫は記録しており情報の共有はしている。支援経過記録も細かに記録しており、計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と過ごす時間を配慮している。希望があれば食事介助もしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用できる地域資源は、うまく利用させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常生活の説明は職員でないとできないため受診の同行をしている。	3名以外は協力医がかかりつけ医となっている。従来のかかりつけ医受診は家族の付き添いが基本だが、状況により職員が同行している。緊急時には病状により医師の往診があり、指示により救急搬送を行っている。歯科、皮膚科は週1回の往診、眼科は適宜受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤専従の看護師を配置し、日々健康の管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	契約書では入院15日を以って退所としているが、今まで退所を願った入居者はいない。治療計画が出た時点で家族と相談することとしている。「できるだけ早期」に退院できるよう帰所環境を整え、何度も面会し病院と話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携加算もいただいているので、指針を立て、事業所でできること、できないことを家族に説明している。又、延命治療の要、不要についても、アンケートを提出いただき定期的に見直している。	入居時に医療対応確認書を説明し、希望を聞いている。医師がターミナルと判断し、家族の希望があり、医師が事業所での対応が可能と判断した場合は、看取りが可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応を全体会議で振り返る等し、それを勉強会としている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議にて、自治会長に伝え地域に発信してもらっている。ホームでは、不定期で避難訓練をしている。夜勤者全員が訓練できるよう継続していきたい。	今年6月には地震、夜間想定訓練を実施しており、9月に火災訓練を消防署立ち合いのもと行う予定である。また、協力内容については具体化されていないが、地域との協力体制については自治会長に依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助動作一つ一つに言葉かけを必要と考え大切にしている。トイレ、入浴では、それ以上に気配りできるよう努力している。	理念である「お世話させていただく仕事なのだ！」を職員が共有・理解し、支援している。管理者は利用者の目線と同じ高さに心掛けながら、接遇や言葉かけに配慮するよう指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一緒に考えたり、待ちの姿勢で希望が言葉となるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側に決まりはない。入居者本人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えや髪を結う際、本人の意思を確認している。おたっしや長屋の入居者はみなさんおしゃれさんです。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介助の手が足りないぐらいで準備や片付けを望めない状態である。…が、出来る限り職員も一緒に食卓を囲めるよう努力している。	利用者の介護度も高くなり、年々できることが少なくなっているのが現状である。食事時、介助や見守りが必要なため職員と一緒に食事できない様子がみられるが、和気あいあいとした会話の多い食事風景で、ほぼ完食されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者にしっかり摂取してもらえるよう、ペーストやお粥などにも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの口腔内の特徴を把握しケアしている。訪問歯科も活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訴えの有無にかかわらず、個々の習慣やペースに合わせて排泄の手伝いをしている。	トイレは各居室にある。日々の排泄記録から個々に声掛けやトイレ誘導を行い、出来る限りトイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防策も試してはいるが効果はいまいちである。便秘薬の服用に頼っているのが現実である。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、午後は入浴の時間となっており、本人の意向を聞いてから順番の調整をしている。	個々には週3回の入浴で、1日に3~4人が入浴する順番で回っている。また、汚染時や希望があれば随時入浴している。拒否する利用者には、人や時間を替えたり、家族の協力も得ながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の様子で判断し、促し、入眠してもらっている。なるべく入居者のペースに合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かなりのレベルで理解しているつもりだ。医師に対しても症状の変化等を細かに伝え、対応を考えていただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	子供の遊びにならぬよう、尊厳を重視し歌やゲーム・体操を選んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の意思が確認できれば家族と協力し、外出している。ホームとしては月に一度ペースで外出している。中庭も、車椅子で下りられるよう板を敷いてもらい、野菜の水やり等を楽しんだりしている。	車椅子利用者が増え日常的な散歩は、できる範囲で行っている。スーパーへ少人数で買い物に行ったり、また知人に誘われ柿や梅を取りに行くこともある。事業所にリフトつき中型バスがあるため車椅子利用者も含め全員で、月に1度遠出を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	でしゃばらない程度に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は発信の手伝いをしている。手紙のやり取りは少ないが、一部手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設計段階から『家庭の延長』をコンセプトに展開してきた。不快や混乱があるとはおもえない。	食堂と居間が別で、居間には大型テレビやピアノが置かれ、また椅子体操等のリハビリも行っている。中庭のウッドデッキにはテーブルや椅子が設置され、季節により日向ぼっこを楽しむ工夫がされている。また中庭の菜園コーナーには季節の野菜が作られ、車椅子利用者も水やりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は独りになる場所ではないと思う。気の合った仲間同士がリビングでDVD鑑賞やカラオケを楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面台以外はすべて入居者の持ち込みなので、自宅に居るような感じで過ごしているように思ってもらえると思う。写真や絵等を家族が飾ってくれ、居心地の良さを工夫している。	各居室に洗面台・トイレが設けられ、ベット・筆筒等家族や利用者の思い出の品が持ち込まれている。また、テレビ・仏壇・写真・手芸品等が置かれ、居心地よく過ごせる配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全には充分留意している。出来ることも把握し廊下に→を貼り居室誘導したり、トイレのドアにトイレマークを貼ったりしてできるだけ自立した生活を送れるよう工夫している。		